

# U.S. Indicators

発表日：2018年10月12日(金)

## 米国 18年9月消費者物価

～予想下振れもFRBは利上げ継続～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:03-5221-5001)

	消費者物価											
	総合		コア		エネルギー	食料品	住宅	アパレル	運輸	医療	商品 コア	サービス コア
17/09	+0.461	(+2.2)	+0.132	(+1.69)	+4.7	+0.1	+0.2	+0.1	+2.2	▲0.0	▲0.2	+0.2
17/10	+0.078	(+2.0)	+0.214	(+1.77)	▲1.4	+0.1	+0.3	▲0.2	▲0.6	+0.2	+0.0	+0.3
17/11	+0.336	(+2.2)	+0.121	(+1.71)	+3.2	+0.0	+0.2	▲0.9	+1.5	+0.0	▲0.1	+0.2
17/12	+0.202	(+2.1)	+0.239	(+1.78)	▲0.2	+0.2	+0.3	▲0.3	+0.2	+0.3	+0.2	+0.3
18/01	+0.539	(+2.1)	+0.349	(+1.82)	+3.0	+0.2	+0.2	+1.7	+1.8	+0.4	+0.4	+0.3
18/02	+0.150	(+2.2)	+0.182	(+1.85)	+0.1	▲0.0	+0.3	+1.5	+0.0	▲0.1	+0.1	+0.2
18/03	▲0.063	(+2.4)	+0.176	(+2.12)	▲2.8	+0.1	+0.3	▲0.6	▲1.2	+0.4	▲0.1	+0.3
18/04	+0.221	(+2.5)	+0.098	(+2.14)	+1.4	+0.3	+0.3	+0.3	+0.2	+0.1	▲0.1	+0.2
18/05	+0.209	(+2.8)	+0.171	(+2.24)	+0.9	+0.0	+0.2	+0.0	+0.4	+0.2	▲0.1	+0.3
18/06	+0.129	(+2.9)	+0.162	(+2.26)	▲0.3	+0.2	▲0.0	▲0.9	+0.4	+0.4	▲0.0	+0.2
18/07	+0.171	(+2.9)	+0.243	(+2.35)	▲0.5	+0.1	+0.2	▲0.3	+0.3	▲0.2	+0.1	+0.3
18/08	+0.223	(+2.7)	+0.082	(+2.20)	+1.9	+0.1	+0.3	▲1.6	+0.9	▲0.2	▲0.3	+0.2
18/09	+0.059	(+2.3)	+0.116	(+2.17)	▲0.5	+0.0	+0.1	+0.9	▲0.3	+0.2	▲0.3	+0.2

(注) 括弧内は前年同月比

18年9月の消費者物価(総合)は、前月比+0.059%(前月同+0.223%)と市場予想の前月比+0.2%を下回った。エネルギー・食品を除く消費者物価(CPIコア)が前月比+0.116%(前月同+0.082%)と市場予想の同+0.2%を下回ったほか、エネルギーがガソリン、電力・ガスの下落や、燃料油の鈍化によって前月比▲0.5%(前月同+1.9%)と下落した。また、食料品は肉や果物・野菜の下落などにより前月比0.0%(前月同+0.1%)と鈍化した。

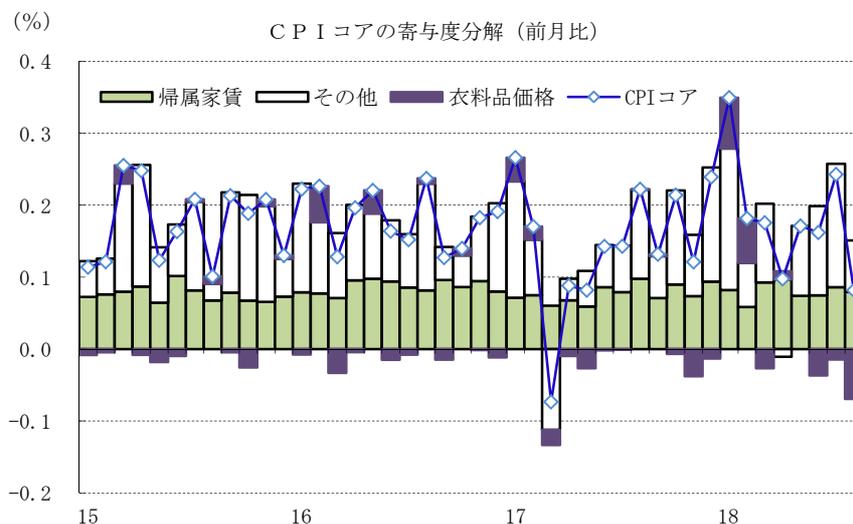
市場が利上げ継続に繋がるインフレ加速への警戒を強めていたなかで、9月のCPI統計は予想を小幅下ぶれたものの、FRBの利上げ継続姿勢に変化を与えるほどの動きではない。

CPIコアは、変動の大きいホテル等宿泊費などの影響により毎月加速と減速を繰り返しているが、均して基調をみると低過ぎず高過ぎない上昇を維持している。貿易戦争、人手不足、地政学リスクなどのインフレ押し上げ圧力とドル高、IT改革などによるインフレ抑制要因のせめぎ合いが続いている。

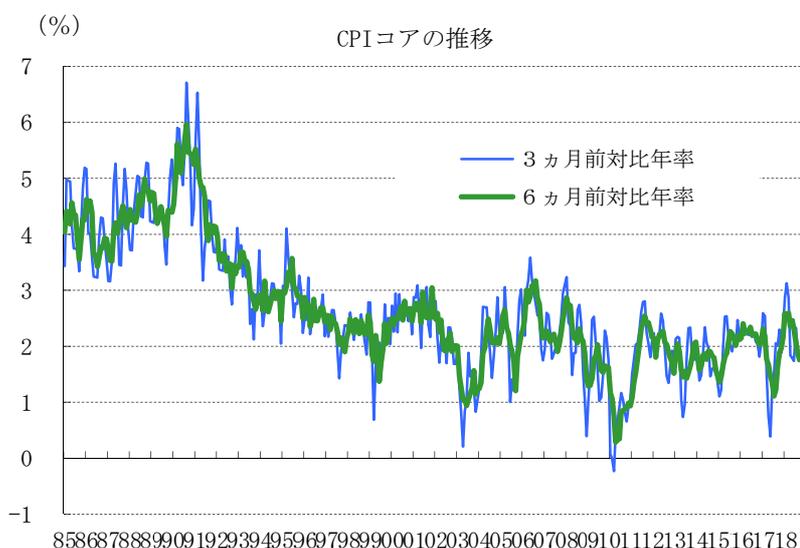
CPIコアでは、商品(財)の下落が続いたうえ、サービスの伸び率が維持された。商品(財)価格では、下落が続いていたIT関連商品やアパレルが上昇に転じたほか、家庭用家具・備品、アルコール飲料、タバコ・歯ブラシ・化粧品などを含むその他財が加速した。一方で、新車、中古車、自動車部品・設備、処方箋医薬品が下落に転じたほか、処方箋外医薬品、テレビやゲームなど娯楽商品、スマートフォンなどが下落幅を拡大したことで、商品コアは前月比▲0.3%(前月同▲0.3%)と下落を続けた。

サービスに関しては、変動の大きいホテル等宿泊費が前月比▲1.2%(前月同+0.6%)と減少に転じたほか、賃貸料が同+0.2%(同+0.4%)、帰属家賃が同+0.2%(同+0.3%)、航空運賃など公共サービスが同+0.4%(同+1.3%)と鈍化した。一方、医療保険などを含む医療サービスが前月比+0.2%(前月同▲0.2%)、レンタカーが同+2.2%(同▲1.7%)、電話サービスが同+0.1%(同▲0.4%)と上昇に転じたほか、カー・リースが同+0.3%(同0.0%)、自動車保険が同+0.8%(同0.0%)、スボ

ーツイベントや会員サービスなどを含む余暇サービスが同+0.7%（同+0.1%）、インターネットサービスが同+0.3%（同0.0%）と加速したこと等を背景に、サービスコアは前月比+0.2%（前月同+0.2%）と伸び率を維持した。



CPIコアのモメンタムをみると、3ヵ月前対比年率で+1.8%（前月+2.0%）、6ヵ月前対比年率で+1.8%（前月+1.9%）と鈍化した。CPIコアの上昇モメンタムは、基調としては安定しており、川下でのインフレの抑制が続いていると判断される。



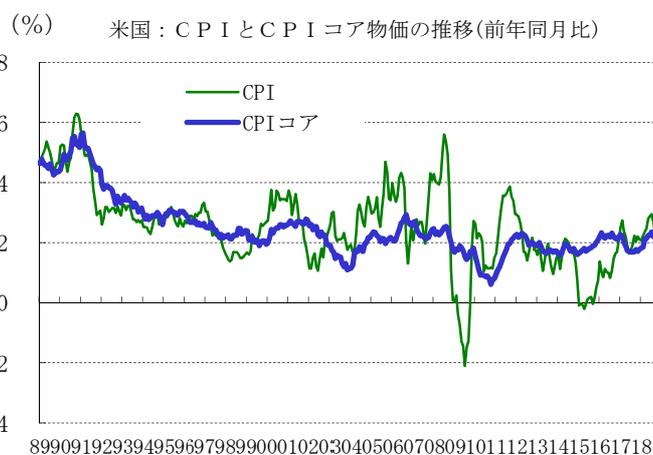
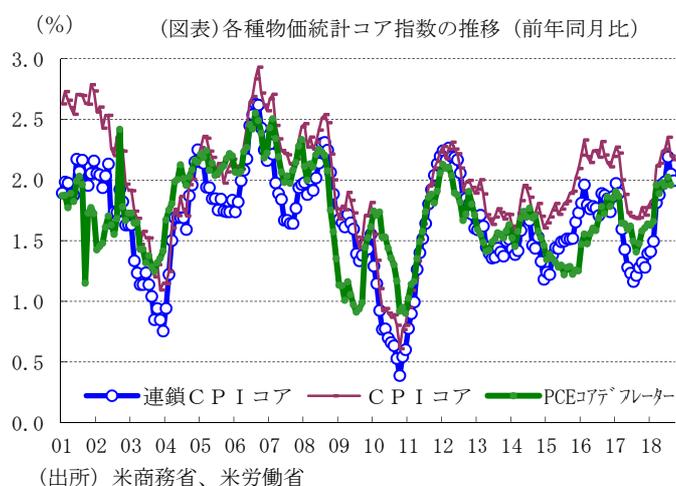
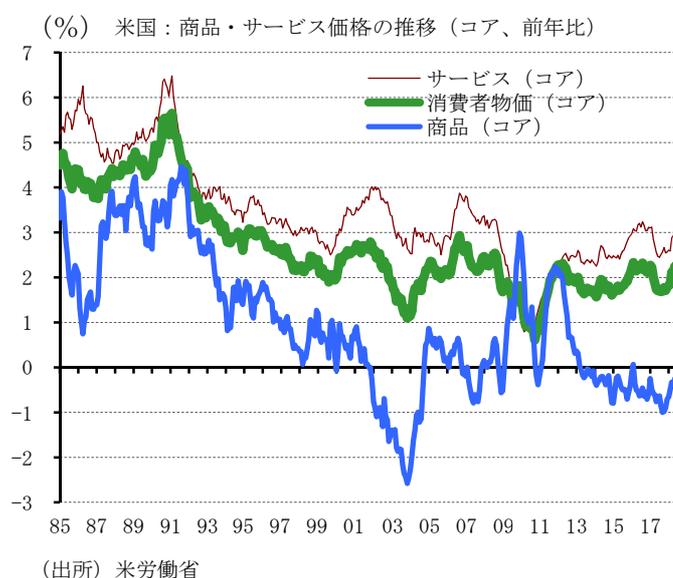
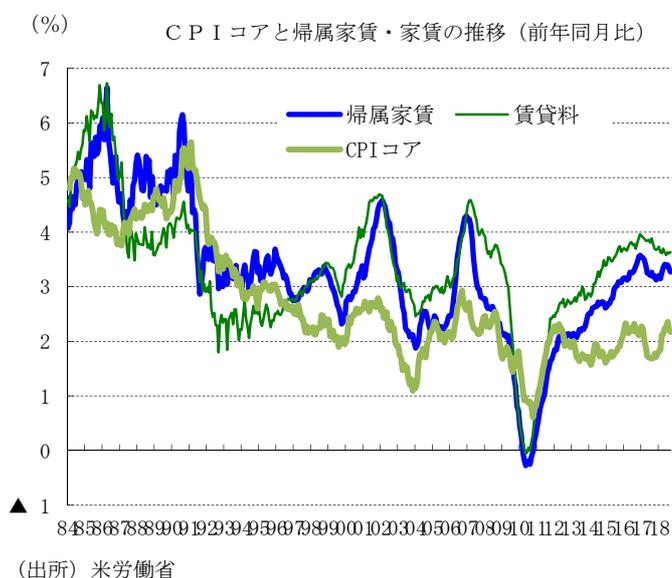
9月の消費者物価動向を前年比で見ると（以下、前年同月比）、総合が+2.3%（前月+2.7%）と市場予想の+2.4%を下回った。食料品が+1.4%（前月+1.4%）と同率だったが、CPIコアが+2.2%（前月+2.2%）と市場予想の+2.3%を下回ったほか、エネルギーが+4.8%（前月+10.2%）と低下した。

CPIコアでは、財コアが▲0.3%（前月▲0.2%）と下落幅を拡大した。内訳をみると、新車や医薬

品などが上昇幅を高めたほか、衣料品が下落幅を縮小した一方、中古車が下落に転じ、テレビやゲームなど娯楽商品が下落幅を拡大した。また、サービスコアは+3.0%（前月+3.0%）と安定した伸びを維持した。内訳では、携帯サービスが下落に転じたものの、帰属家賃、賃料、自動車保険、医療費など需要の強い分野が上昇を続けた。

また、より実態に近い物価動向を示す連鎖CPIコアは+2.00%（前月+2.05%）と小幅低下し、加速感に乏しい。

これまで公表された統計から、FRBが目標としている9月のインフレ統計を予測すると、PCEデフレーターは前年同月比+2.0%（前月同+2.2%）と低下する一方、PCEコアデフレーターは前年同月比+2.0%（前月同+2.0%）と横ばいになると予想される。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。